

陽気だより

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

No. 43 2010.10.15

第5号(24年9月号)から

「陽気」は、昭和24年4月の創刊、今年で61年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。



ラジオ放送で、このところ評判になっていっているものの楽屋話をキャッチしようと、日曜の午後「素人のど自慢」の楽屋へ行く。

放送は午後だが、午前中にテストは始まっている。ハガキで申し込んでくる人に、放送局へ来て下さいという通知の行くまでには、約一月から一月半ほどかかる。やっとそのチャンスを得た鼻高連中が、午前九時にはスタジオに集って、一通り唄う。約三分の一が午後の出演者として残る。

この第一予選が見ものである。我こそはと唄ってみるが、鐘が鳴らないから、その点数は本人には判らない。「あなたは午後に出て下さい」といわれた連中は、ニヤリとして、「有難うございます」あなた

は残念ですが、もっと勉強してきて下さい」これは落第である。「駄目なんですか、困ったなー、僕が今日放送局へ行くというので、村中のものが見送りにきたんですから、ここで落とされては村の人達にあわせる顔がありません。あーというだけでも結構です、どうかやらせてください」と係の者を拜んでいる若者があ

る。「どうも弱りましたね、そんなわけには行きませんのでね、まー我慢して下さい」中にはふくれてしまつて「午後の本放送を聞いて参考にしてください」といつてあるのを「チェツ、面白くないわ」と、サツサと退場してしまうものもある。

しおれた人、胸をそらした人、悲喜こもごもの情態を見

せて午後の幕が切落されると、皆さんが聞かれるカーンの鐘の音が聞えるわけである。「ないんだ、あんな、ま

ずいのが出るくらいなのに、私を出さないで」と、まだ不平ため息を続けている者がある。そこで係の人に尋ねる。「どうして、あの程度の人を出すのですか」あのくらいのが出まさんと、巧いのが一般の人に判りませんから」それでは出る人には、気の毒ですね」いいえ御本人は大得意ですから、そのご心配はありません。第一予選に入った誇りがありますから」

「よく同じ人が出るぞーですが、変名をして申し込むのですか?」

「そうでは無いですが、本名です。なにしろ数がありますから、ついに入れてしまいます。顔だけでは判りませんが、声を聞くと、おやどこかで聞いたような声だ

など、感づきます」と同時に、あつこの前唄謡を唄った人だった、と

いう具合に判ります。毎月必ず一回は出る女の人がありますが、やる度に趣向を変えるのには局側も感心したりして

ます」

「その耳にかけてるレシーバーは審査員の所へ通じているのですか?」ええ、アナウンサーと鐘の係の二人がかけて

いて、向うの審査員のいる室で、審査してる話がちく一入

つてきます。『どうだろう、二つだね』二つだよ、二つ二つ

で、鐘の係がカンカンと二つ叩く。私が、どうも惜しいと

ころで、という具合です」



信仰例話 (道友社刊『真実の道』より)

無言の導き

T君は生涯大陸で働こうと志した男である。それが終戦後抑留されて二十三年の暮れに郷里へ帰って来た。それから世話する人があって、亜炭採掘の事業会社に入って働いた。

T君の仕事はトラックで亜炭を積んで駅のある街へ運ぶのである。これを数人の作業員とともにやっていた。亜炭を積み込む側に民家があつて、そこに切りいもがほしてあつた。作業員たちは腹がへるので、それをつまんで食っていた。大分食われたようである。それでもその家の人は怒らなかつた。翌日になるとまた同じ



養徳社駐車場フェンスに咲く“あさがお”

だけほされた。また食われた。その翌日も切りいもは同じだけほされてあつた。

それが幾日も幾日も続いた。T君はその家に下宿していた。それは雨の降る夜であつた。T君がはじめてここに就任し、

駅から雨の中を歩いてこの村につき、偶然この家に一夜の宿を願つた。主人は快く泊めてくれた。

それからずっと下宿することになった。別にチャホヤはしないが、他人という気分が少しもなく、夜は一家のものと火鉢を囲んで話を楽しんだ。それが二日たつても三日たつても変らなかつた。不思議な人々だと思つていた。それに今またほしいものをなんぼ食われても、性こりもなくまた出している。偉い人々だと思つた。だんだん親しんでいる間にこの家の人々が天理教の信者であることを知つた。T君は、一介の百姓の心境をここまできよめ得る天理教の真髄を知つてみたいと思ひ、自分も教会に参拝し、そして修養科に入學した。(みちのとも 昭和二十六年より)

秋季大祭発刊

アナタへの手紙

信仰のこと 社会のこと そして人生のこと

そよ風のように やさしく 手元に届けたい

著 讓 吉澤

(新津分教会前会長・新潟教区長)

四六判並製 224頁 定価=1155円(税込) 〒200

養徳社 出版

天理市川原城町 388 (0743)62-4503 http://yotokusha.com/

「陽気」創刊60年記念出版

人生二終なし

じんせいにおわりなし

—父 柏木庫治を語る—

- 三人の兄妹によるてい談
- 「陽気」掲載記事
- 柏木庫治小伝

定価=1,260円(税込) 送料 200円

「陽気」創刊60年記念出版

道の八十年

—松村吉太郎自伝—
天理教の歴史とともに
生き抜いた信仰軌跡

松村吉太郎 著 定価=1,680円(税込)
(高安大教会初代会長) 送料 200円

「陽気」創刊60年記念出版

お道の人のおとておきの話

お道の人のお美しい心象風景 52話

朝席・夕席に最適です

定価=1,260円(税込) 送料 200円

養徳社 よもやま話

○月○日「陽気」の発送用宛名印刷機が突然壊れた。13年間使用し、印刷枚数は30万枚。原因は、給紙部分のゴムの劣化だった。発送中のアクシデントで、代替機を借りて凌いだ。

メーカーに修理依頼をすると、故障機は生産終了のため部品がない、修理が出来ない、とのこと。かわりに新しい印刷機を勧められて見積もりを見ると、0がひとつ多い。

このきびしいご時世、簡単に手は出せない。「町工場に依頼し、修理してもらったら」「10年使うことを考えて新製品を買うか」と相談している時、インターネットで偶然、北海道に同じ印刷機が1台あることがわかり、早速先方へ連絡！かなり格安で譲り受けることが出来た。

長旅を経た印刷機の具合を見ようと試運転をした。調子は良好！と、印刷カウンター数を見ると、18億枚??? 使用上は問題ないが、冗談としか思えない数字にびっくり！「陽気」読者激増のメッセージか?!

この「陽気だより」を各支部例会などの折、広く養徳社からのお知らせとしてご利用くださいますよう、お願い申し上げます。

養徳社